

1933



常警每日新聞

定額一圓五角 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
廣告費 別表 印刷費 別表
發行所 常警每日新聞社
印刷所 常警每日新聞社

年頭言

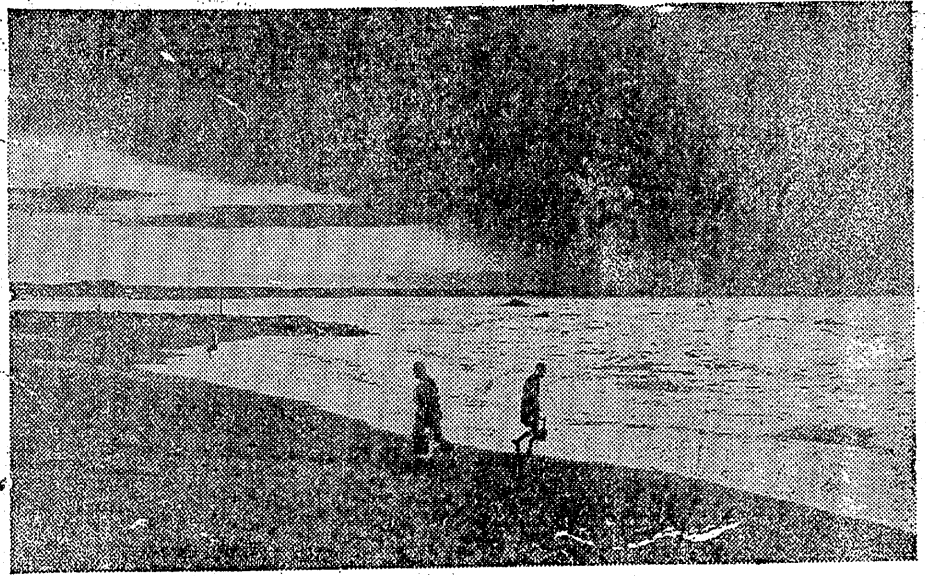
歲華更新、茲に光輝ある昭和八年を迎へ、先づ、聖壽の萬々歳を謹賀し奉り、國運の隆昌と、臣民の慶福とを禱る。
回顧すれば昨年はあらゆる方面に於て言語に絶せる超多難、多事の累積した、極めて變化の著しい歳であつた。
即ち外には滿洲問題を中心とする國際聯盟の紛糾あり、内には不景氣の魔風全國を席捲して满目悉く生色なく天下を擧げて鬼哭愁々の慘境と化せしめた。
然れ共幸ひにして、朝野擧げての萬難に耐ゆる意氣込みは、外に帝國の尊嚴を發揚して、我國が東洋平和の礎石たるべき重要な地位を認識せしめて、幾分なりと滿洲問題を好轉し、内に爲替安とインフレ政策は、産業界を刺撃し、好景氣を勃然と湧起興隆せしめ漸く此處に國民は倒懸の久しき困厄より解放せられ、世運繁榮の旭光に照被して初春を迎へたのである。今日の佳辰に當つて希望の悦樂に浴するの感慨一入に深きものがある。

而し今迄に受けた打撃は深酷重大である、殆んど瀕死の重態に陥つて居るといふも過言でない、其の回復には相當の歳月を要する事は言を待たない、功を急ぎ回復を焦燥るは、病勢をふり返して遂に救ふべからざるに至らしむる事を保し難い、古人曰く病は少しく癒ゆるに怠り、事は將に成らんとしと敗ると、吾人は此際拮据踴勉、事に當り、夙夜汝々として業に勵み以て狂瀾を既往に復さねばならぬ、此間に處して本紙が眞に郷土新聞の使命に従ひ、幾多の事相を機敏に報導し公正なる輿論の喚起暢達に努力するの責務、また重大なりと感ずる、願はばく讀者各位の御支援により必死の邁進を期するものである。
さもあらばあれ、窮つて通じたる一陽の來復である、重なる歡喜に前途の榮光を認め、新春の陽光は洋洋として六合に輝き渡つて居る、國運の躍進期して待つべく、吾人國民は協睦一致、先づ今日の元旦を壽かんな。

昭和八年一月一日

常警每日新聞社

同人



てみなちに題勅

時局に鑑み 一致協力せん

けふ名刺交換會の

青沼町長祝辭

一陽來復昭和八年の新春を
迎へ茲に平町民各位と一堂
に相會し親しく歳革更新の
祝辭を述ふるは不肖の最も
欣快とする所なり、靜かに
昨年を回顧するに昭和六年
九月十八日勃發したる滿洲
事變は我

忠勇なる皇軍の將士
嚴寒酷暑を意とせず滿蒙の



の獨立を承認したりと雖も
外は全世界凝視の焦點、滿

曠野に身命を抛ち、支那の
匪賊を剿滅し、新國家滿洲

洲問題を中心とする國際聯
盟會議の形勢尙安意を許
さず、内は經濟界の不況益
々深刻を加へ、國家財政の
危機に直面し、未曾有の
難局に逢着す、就中

中小工農業者の疲弊困憊殆
んと其極に達し眞に想像の
外に在り、今や國家重大の
時機に蒞み國難を打開せん
とするに際し國民たるもの
正に一大決心を爲さざるべ
からざる秋なり、爾て吾平
町自治の實績を顧みるに財
界の不況に處し克く町民一
致耐忍以て健實なる

町勢の進展に努め多
年の懸案たる上水道擴張事
業は順調に進捗し豫期の如
く工事の完成を告ぐるに至
り、又縣は新たに蠶業取締
支所を本町に設置し以て斯
業の獎勵發達に資せらる、
而して從來平、内郷、飯野
一町二ヶ村水害豫防組合の
管理に係る新川は時局匡業
事業として近く改修工事の
完成を見んとし、河川法に
依り縣費支辨川に編入の諮
問は

縣會の可決する所と
なる、是れ本町福祉増進の
ため寔に慶祝に堪へざるな
り、叙上の如く今や吾國內
外多事多難、國家重大の時
機に際し本町も亦、勸業に
教育に、衛生に、將た土木
に逐年施設の多きを加ふ此
秋に方り昭和の聖代に生を
享ふ吾人の幸福何ものか之
れに若くものあらんや、吾
等國民たるもの宜しく時局
に鑑み、時勢の進展に努

益々地方

自治の機能を發揮し
時代の要望に副はさるべか
らず、不肖舊職乏しきを本
町長に擧げ其職を汚したり
と雖も元より淺學非才其器

にあらず、果して重任を完
ふするを得るや否、唯及は
ざらんことを虞る、希ふは
町民各位の援助と共に自重
自愛し各其職に努め其業に
勵め、協力一致、國家の隆

賀狀六十萬突破!

新廳舎成つて以來の記録

嬉しい初春の便り——賀狀の洪水、平郵便局では戸石局長以下局員總出、夫れに
臨時働きの人々も加はつて晝夜兼行の大馬力、寒い最中に汗みどろの大奮闘を繼
續して居たが歳末卅日迄に押寄せた年賀狀の数は着發が廿一萬餘通で前年の十九
萬に比較して實に三割の増加發送は卅二萬、前年の廿八萬より二割の超過、期間
外の取扱数を合算すれば豫てより同局の豫想數であつた着遂六十萬は遙かに突破
するであらうと見られ新廳舎成つて以來のレコードである

初春を迎へ

喜びを分つ

氣の毒な家庭に

贈らる、餅代

折角の新春を迎へても生活
難に壓倒されて輝かしい初
日の出をも仰ぐ事の出来な
い
氣の毒な 貧困の人々
平町役場の調査に依ると其
の戸數は八十戸で三百廿三
人に達して居るといふ此の
人達は或ひは病氣、或ひは
失業其他重なる悲運に遭遇
して嫁ぐに縁がずピン底に
もがいて居る
世間の情 けは決して
此の人達を見のがして居な
い、役場では方面委員と聯
絡をとつて先頃の同情袋や
豫ねてからの救濟積立金に

お蔭様で

正月を樂にと

遺族達が熱謝

水難慰問金を配分

過般の海上犠牲者遺族を慰

昌と本町の發展を圖り國民
更生の實を擧げ以て聖代の
鴻恩に副ひ奉らんことを期
す、聊か弊言を陳へて祝辭
とす

平町新年

祝賀

聚樂館に

けふ開く

平町役場主催新年祝賀名刺
交換會はけふ午前十一時よ
り聚樂館に於いて酒井助役
の開會の辭に始まり左記順
序にて催されるが參加者は
六百餘名に及ぶと

町長祝辭
會員祝辭
萬歳三唱
開宴
餘興

常磐毎日新聞社

社長 川崎文治

〔五十音順〕

謹賀新年

大 金 川 勝 坂 館 根 橋 古
林 成 崎 村 本 川 本
俊 定 德 榮 忠 一 吉
吉 雄 子 一 治 次 光 涉
澤 本 本 本 本 本
外從業員一同

朝の海 島田忠夫

朝日子のさしのぼり来るひむがしの空はあかねに染みて静けし
天つ空雲なく晴れて海の上に今しきしのぼる初日の大きき
初日かげさして静けし荒磯へにとどるに寄する波も風きつ
初日かげさしたる磯わには波こもこもに立ちさやぐなり
潮ぎりの寒く吹きくる砂濱に初日拜みて静ごころなれ
濱松のみどり匂ひてさしのぼる朝日子空に高くなりつ
わが妻もいでて拜みれ砂濱を朱に染みつづ日は出づるなり
たふとくも光あまれしあら玉の初日の光さしてあまれし
朝の海おほになぎつ寄せかへす波のしぶきも見のさやけかり
あかときに下りけむ鳥の鼓がたのここたく残る砂濱のへに
あら玉の年の初めの祝き酒をくみて迎へむわが年幾つ

元朝の縁起

……山雲繼真……

『元旦や昨日の鬼が禮に来る』とは、あまりにも言ひ古であるけれど、古い真理はいつも新しいもので本来、鬼も佛もないが、我が心が鬼となり、佛と轉じ歳晩の涙は新年の笑ひとなるのである。されば經には心はたくみななる畫師の如く、種々の五蘊(物)をえがく、一切の法として描かざるなしといふてある。

同じ筆法をもつて、大晦日も新年も、禍ひも福も、我が心がつくるので、一歩を進めて禍ひを福に轉ずることも出来る。新春の挿話二三を掲げて皆様、福徳の縁喜とする。

或る家の門松が元朝になつてみると、前夜の烈風のため無残に吹き倒されてゐた、年の初めに門松の倒るゝはこの年わが家の倒る前兆なるかと、家人大いに嘆息してゐるところへ年頭の禮に來た蜀山人

元日や福壽の神が來た風にも果報懸て待つ又起きて待つ

と詠んだので一家たちまち機嫌を直した。

或る家、元日の朝土瓶がこわれたので氣に病んでゐると

元日に鈍と食とが打ちわられて跡に残る金の蔓なりで縁起が直つた。

更にまた或る家の下女、時もあらうに元日の朝むさくるしい雑巾を床の間に置き忘れてゐたので縁起でもないし情氣てゐると

雑巾をあて字に書けば藏と金あちら福とこちら福と又更に元日の朝門前で子供が泣き初めをやつたので不吉なりと氣をくさしてゐると

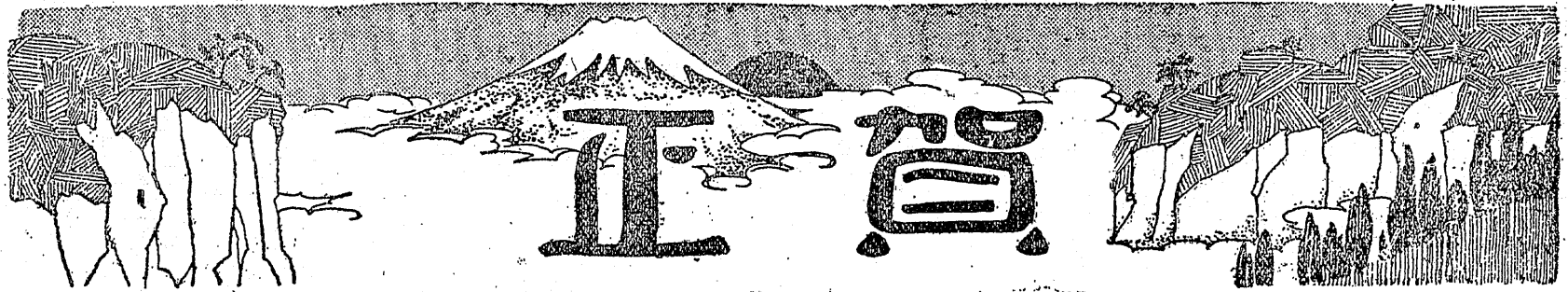
七福に貧乏神が追ひ出され門のところをわいわいと泣くと

と詠み一同大よろこびをしたといふ話。一念の轉處で不吉も大吉とかはる心ほど不可思議なものはない。

世間では相當信仰の積んだ筈の人も元旦勿には念佛とか阿彌陀佛とか言へば直ぐ往生といふ字に結びつけて縁起が悪いやうに早合点するが、これほど目出度い言葉はない。かつて彦根の城主井伊掃部頭は、元朝に『阿彌陀』といふので茶をたてた『元日』から斯やうな縁起でもない名前を茶で湯を沸かしては……と家老某が御幣をかついだところ掃部頭の曰くには

『阿彌陀』は日本一の目出度い品で決して不吉なものではない。何となれば阿彌陀とは天竺の言葉で漢譯すれば無量壽と書く。無量壽とは量りなきほどの長遠な命といふこと。や、鶴は千年、龜は萬年を目出度き標本にするが阿彌陀の三字に比すればそれゆゑ元日にはこの阿彌陀を掛けて、現當二世の幸福を樂しむのぢや』

と物語られたと云事である



- | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------------------|--------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 大森 醫院
電話二五八番 | 大和田耳鼻科醫院
大和田郡 司
電話一八〇番 | 星眼科醫院
星 恒 明
電話四七一番 | 金成 醫院
金 成 忠 義
電話三五七番 | 吉田眼科醫院
吉 田 安 雄
電話六八番 | 根本産婦人科醫院
根 本 莊 次 郎
電話三四番 | 矢吹 醫院
矢 吹 大 輔
電話二六六番 | 松村 醫院
松 村 鐵 郎
電話一〇七番 | 藤沼 醫院
藤 沼 平 太 郎
電話五〇七番 | 酒井 醫院
酒 井 國 三 郎
電話五五番 | 鈴木眼科醫院
鈴 木 亮
電話四三八番 |
|-----------------|------------------------------|--------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------------|---------------------------|

有隣生命保險代理店
佐々木 龍若
平町 四軒町
電話二九八番

平町會議員
辯護士 千葉彦治
平町 三六五番

根本 品藏
平町 六月見町
電話六四六番

馬目 武之助
平町 新川町
電話五五八番

平町助役兼水道課長
酒井 虎之助

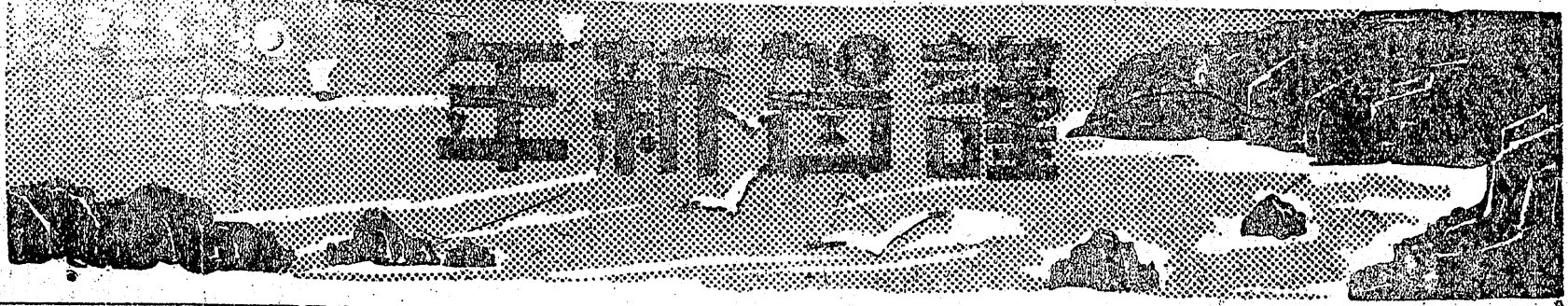
魚問屋 志賀盛榮
平町 四丁目 電話二一三番
最優最日本生命保險代理店

銘酒白馬の雪釀造元
松本 徳一
石城郡 平窪村

多田井 笑次郎
平町大工町電五九一番

久野 ひさ
平町 三丁目

平看護婦會長
清野 清子
平町南町電話三〇七番



常磐毎日印刷株式會社
 監査役
 辯護士 **門傳清吾**
 平町播磨小路(電話二四)

土木建築
 請負業 **江口忠一**
 平町播磨小路(電五一九)

平土木監督所
 所長 **小林清吉**

高橋龜松
 福島縣平町白銀町
 電話六三八番

磐城共濟病院
 院長 石山謙一郎
 電話六四一
 自宅 電話一二四番

市原醫院
 市原 卯太郎
 平町田町電話一二四番

井坂醫院
 井坂 久吉
 平町田町電話五五九番

原齒科醫院
 原 精一
 平町土橋電話三一三番

渡部外科
 渡部 義夫
 平町田町大通電話二七七番

上田外科醫院
 上田 耕作
 平町南町電話二二九番

耳鼻喉科 **山内醫院**
 山内 亨吉
 平町田町七〇電話六九一

櫛田榮太郎
 平町材木町 電話二四八番

山田忠太郎
 平町三丁目 電話四五七番

吉村四郎
 平町研町 電話四〇六番

福島健之
 明治生命保險株式會社
 (寬利改)

小野勝康
 平運送合資會社
 (舊名長吉)

色川光以
 郷社愛宕花園神社
 平町田町通

吉田壽義
 社司

金成泉一郎
 木村外科醫院
 平町材木町 電話七九番

木村淳
 平町六丁目 電話三〇九番

増田醫院
 耳鼻喉科
 平町南町 電話四八二番

渡邊醫院
 內科
 平町鼠坂 電話一六一番

三山田麻袋商店
 福島縣石城郡内郷村字境
 麻袋賣買
 電話一九二番

いづみや玩具店
 平町驛前

星野時計店
 時計と眼鏡
 平町三丁目
 驛前通り

三一二三屋
 牛肉商
 平町田町
 電話三二三番

住吉屋
 常陸セメント海岸線特約店
 酒井 伴城
 田町電話六六一番

大塚
 製靴部
 店主 大塚風三郎
 平町電話七七番

宮川理容所
 宮川 義一
 平町驛前

糸店
 合名會社
 ハシモトヤ
 平町電話一四七番

會津館
 新築閑靜家族的
 旅館
 館主 金澤清
 電話六四八番

青木寫真館
 活動常設
 平町公會堂前
 電話四二二番

平館
 松田 卯井郎
 電話四六六番

岡山寫真館
 平町川岸通
 電話六一五番

市原商店
 海產物商
 平町一丁目
 電話二四四番

丸屋タビ洋品店
 平町一丁目

三九二タクシ
 平町二丁目
 電話四九三三九二

西村屋藥舖
 平町三丁目
 電話三五九番

丸ほん家具店
 平町新田前 電話一八二番
 丸ほん家具製作所

酒由良の助
 本店 平町田町電話二〇七
 支店 小名濱上町電話一四〇

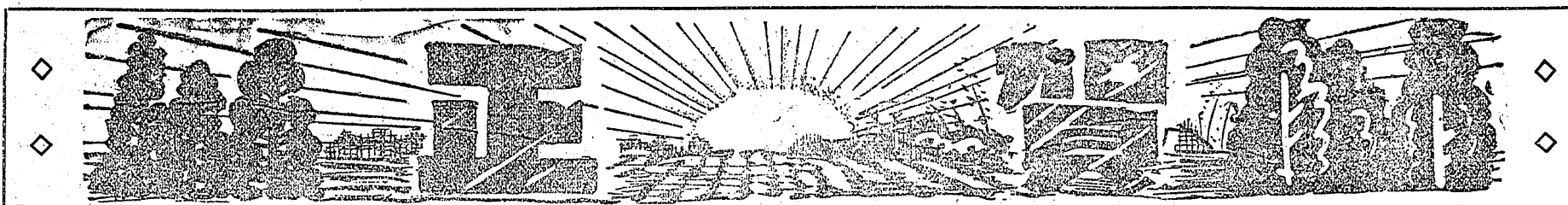
小谷製袋店
 荷札封筒紙袋製造販賣
 平町南町七六
 電話一四七番

若松兄弟牧場
 平町柳町
 電話五五二番

博盛堂
 松本 幸松
 平町播磨小路
 電話五三五番

青年學校
 創立明治四十年
 平町城山

諸橋吳服店
 平町新川町
 電話五〇番



石城銀行組合

福島縣
町村長會
石城支會

平商友會

顧問 矢野泰次郎
會長 菅本利雄
副會長 室橋光

福島縣
石城郡
小學校長會

中磐
學校城
交誼會

平商
校業
職員一同

伊東一

吉田金作

大河原茂平

砂利採
販賣
神谷組

神谷兼次郎
石城郡好間町

區長有志

第一區
川角兼吉

第二區
木澤常松

第三區
關內喜久次郎

第五區
比佐信太郎

第十五區
赤塚勇吉

好間村役場

吏員一同
村會議員一同

なかや洋服店

薄硝子製壇所

薄源次郎
内郷村小島新町

三井自動車部

電話六八五番
三井質店

湯本信用無盡株式會社

湯本町
電話四七番

加藤自轉車店

平町長橋町

關內藥局

藥劑師 關內榮助
福島縣平町四丁目
電話四〇番

藤浪電氣工業所

平町白銀町
電話五八一番

清野彦四郎

古物問屋
平長橋町六三

中島寫真館

平町田町

鶴屋商店

平町四丁目
電話一四〇番

和洋菓子松屋

菓子
平町長橋町
電話五二二番

平搾乳所

平仲間町
九品寺前

石崎理髮舖

大床號
平町田町
電話一八八番

關內精米所

平町長橋町
電話三八九番

海產物乾物商 仙臺屋商店

平町長橋町
電話五四八番

吉村綿店

平町研町
電話二五七番

株式會社 百澤商店

平町四丁目
電話一二番

田邊忠商店

電機諸機械商
平町白銀町一四
電話二九四番

渡邊商店

高砂饅頭
平長橋町

秋山時計店

時計と眼科
平町世界館前

吉村商店

衛生綿糸類雜貨商
平町長橋町

山久團扇店

カレンダーポスター
武田義亮
平紺屋町局前

カフェー 松ヶ岡

平町公園前

敷島テント商店

大島勇八
平町六丁目

モリタヤ 洋品店

平五丁目
電話三五三番

坂本紙店

平町一丁目
電話一八番

大黒屋洋品店

平町三丁目
電話一六番

武藏鐵工所

チルド車輪製作業
平町接穂小路
電話五一四番

柏木支店

醬油
平町長橋町
電話二四三番

横山彰商店

平町三丁目
電話九四番

中野洋品店

平町二丁目
電話五三番

松本屋商店

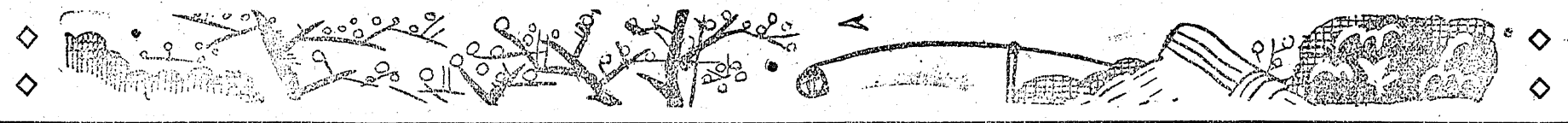
合資會社 製菓問屋
平町四丁目
電話二二四番

藤寅カマ店

平町一丁目
電話一四一四番

和久井屋

漆器家具
平町一丁目
電話四〇五番



慕末齋

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百三十五席 平手造酒

久しぶりで料理屋へ

七助の妹おしづは勢力が金比羅山に隠れてゐると聞き

しづ『よく知れずに居るね……』

七『後人や目明し衆もあんな山にゐるとは思はねえ、食物がなくなつたので俺が船戸の文右衛門さんのとこへ持つて行く米を買ひなすつた、まア一俵あれば當分困るやうな事もなからうそれからお前が平手先生に可愛がられて子まであることを話すと何うかその子を大事にしてくれと云つて金をくれたぞ』

しづ『オヤそう有難いね、わたしもモウ一二年こゝで稼いでお金が出来たなれば銚子へでも行き商ひでもしてあの子供を大きくしますよ』

七『そうかまア身體を大事にして奉公しろよ、又勢力親分に頼まれた用事もあるだからそれを俺はつとめなければならねえ』

しづ『兄さん、お前何を頼まれたの』

七『何の助五郎どんが八州の旦那衆と共に勢力親分の行方を捜してゐるだ、しか

し金比羅山にゐることは氣が附かねえ、とは云へ何うもあの邊にゐるやうな氣持がすると見えて山の近邊を厳しく捜してゐるだ』

しづ『さういふねそれで親分は山に隠れてゐるの何うか望みを遂げさせ度いものだね……』

七『俺もそれについて力のとくだけは親分のために働くつもりだ、併し奉公してゐる身だと思ふやうに働く事も出来ねえ、まア何にしても一日も早く親分に望みをとげさせてえものだ』

と云つたがこれ以來七助は勢力のために助五郎又は八州役人の様子を探り折々來ては山に報告する、その度毎に勢力が一兩と金を



らう、天狗様になる積りかそれとも仙人になる積りか七『馬鹿な事を云ふな、山に入つたとして天狗様にはなれねえ、死んだ親分の怨みを晴らす爲め飯岡の助五郎どんを狙つてゐるだ、助五郎どんを殺せば平手先生の怨みも晴らす事が出来るだ

これが懷中を突いておとなしくしてはゐられない、在方の事で日が暮れれば奉公人は遊びに行き四ツの鐘が鳴ると戻つて來る、これは田舎の習慣ですから主人も答めない、時に七助は銚子に遊びに來た、もつともこの日は十五日で休み久し振りで旨い酒を飲むつもりで銚子の觀音前の花屋といふ料理屋へ上つた

七『姐さん酒をどん／＼持つて來ておくれ、それに肴を見つ／＼つて、今日は旨いものを食べにわざ／＼出て來たが』

女『左様でございますか、誠に酒の毒でございますが、お酒はありますがこの頃不漁でございます、お魚がございませぬよ』

七『この頃は不漁だと、それは不思議だな、この十五日は天氣もよし風もねえだ銚子は風の強い所だが今日は静かだねえか』

女『それでも海があれて居りましてお魚は取れませぬよ』

七『刺し身位はあるだらう』

女『まことに氣の毒ですがお刺しみがございませぬよ』

七『料理屋で刺し身がねえとは妙だな、何ぞ肴がありさうなものだな』

女『左様でございますね、二蛸がございませぬが』

七『蛸だ、料理茶屋で使ふか立場茶屋ではあるめえし觀音前の花屋と云へば名代の料理屋だ、それでは玉子

焼も持つて來てくれ』

女『お氣の毒でございますが不漁でございます、この頃は鶏が玉子を生みませぬ』

七『馬鹿なことを云ふ、不漁で鶏が玉子を生まねえといふことがあるか、ウム判つた、おらの服装がきたねえで飲み食ひをした勘定を拂ふ事が出来ねえと思ふからそんなことを云ふな、それ見ろ、こゝに二分金で二兩ある、これだけあつたならばこの勘定で差支る事はなからう』

女『左様でございますね、しかし全く魚はございませぬよ』

七『それでは何ぞ見繕つて出してくれ』

常警日印刷株式會社

取締役 川崎 文治

取締役 佐々木龍若

同 志賀 盛榮

監査役 門傳 清吾

同 原 精一

相談役 山崎 清三

同 阿部政右衛門

謹賀新年

鹽屋
山崎合名會社
山崎 與三郎

平町長 青沼鋒太郎

日本石油株式會社特約店
關内油店
關内 正
平二丁目 電話一六番
新山支店 電話三二八番
關本支店 電話平瀨七番

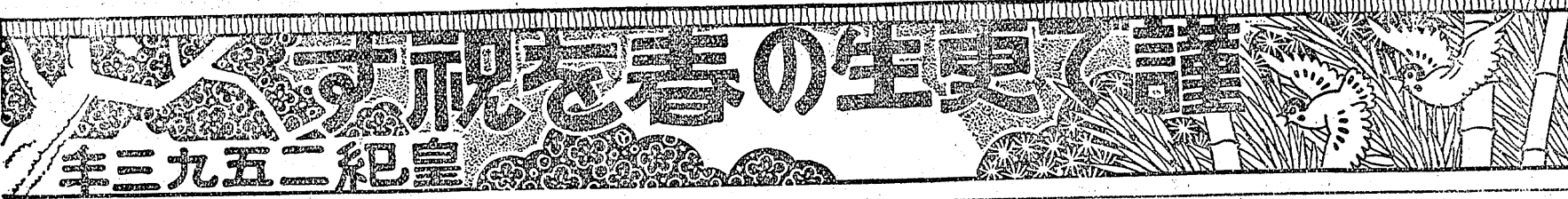
建築一般出願事務取扱
土木建築設計工事監督
大井建築設計事務所
建築士 大井 勇
平町八幡小路

最上醬油
醸造元
小野園次郎
平町長橋町(電話二五一番)

金成國雅
平町鎌田町

味噌醬油
醸造元 吉田三郎
内郷村小島新町

謹んで新年を賀し奉ります
明るく輝かしき新春を迎ふるに當り皆様
の御盛昌を慶福し新年の御祝詞申上ます
カフエー世界
關内 靜
電 四 六



前代議士 木村清治

安島重三郎
石城郡山田村

貴族院議員 金成通

衆議院議員 鈴木辰三郎

阿部政右衛門
平町搔樋小路 電話三七番

縣會議員 井上茂作

縣會議員 赤坂毅一

古川傳一
石城郡植田町

山崎登
石城郡錦村

濱三郡龍生會々長 華道教授 正木旭正
平町六丁目

小田吉次

釜屋商店
電話九番九九番

三井吳服店
電話三八番二八四番

明治生命保險平南代理店
明治火災保險平南代理店
大屋商店
電話一三番

平藝妓屋組合

平料理屋組合

平旅館組合

平三業保健組合

御旅館 住吉屋本店
平紺屋町 電話一五九番

牛料理 石川亭
田町 電話四三番

御料理 八千代
田町 電話三七五番

川井内科診療所
平町南町 電話一八一番

洋酒罐詰海産物商 醬油味噌醃造元
關内半平
平町長橋町 電話一六〇番

衛生牛乳 岡田牛乳舎
平町鎌田町 電話五一番

鶏卵商 鳥菊
南町 電話二八六番

柏屋染物店
阿部傳六 平町材木町

小野屋藥店
平町四丁目 電話一四四番

玉よこ
平町南町 電話四二六番

松崎ガラス製作所
平新川町 電話一四二番

江戸前料理食堂 割烹 錦水
仕出し 電話四五四番

洋食・喫茶・宴会 コンパル
電話六六六番

青物果實問屋 高子商店
平町長橋町

金成金三
植田町

御料理 越の家
平二電三三〇番

伊勢屋
平四丁目 電話四五番

ライト寫眞館
平町大通 電話五三五番

三國印刷所
平鍛冶町 電話五三三番

袋屋果實店
平四電一一一

平銀座 黒猫
電話六七九番

高木屋本店
平町三丁目

諸金物商 宗像金物店
平町研町

大勝園茶舗
平町三丁目 電話三九六番

根本時計店
平二丁目

菊地靴鞆店
平四丁目

君の家
田町電三八二